

## 島で進める6次産業化 ～万葉の島で未来を想って～

佐賀玄海漁業協同組合 唐津市統括支所  
神集島支所女性部 岩本 ひづる

### 1. 地域の概要

私たちの住む神集島（かしわじま）は周囲7kmほどの離島で、対岸の湊地区との距離は近いところで400m程度で、定期船はおおむね10分程度で島に着く。

#### 神集島の位置図



神集島は『神の集まる島』と書くが、この名前は、日本書紀に登場する神功（じんぐう）皇后が戦勝を祈願し、神々を集めたという伝説に由来すると言われている。

また、神集島は古来、新羅など朝鮮半島や大陸を訪問する際の中継基地となっていた。

このため、万葉集には新羅への使者が神集島で詠んだとされる歌が7首も収められている。この事を記念し、神集島には歌が刻まれた石碑が7つ設置されており、島の名物となっている。

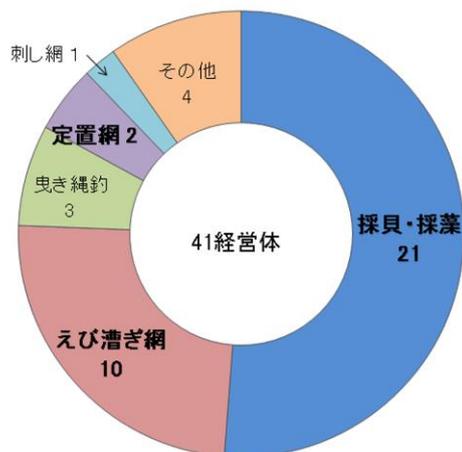


このように歴史のある神集島は昔から漁業も盛んで畑も多く耕されており、とても活気のある島であった。豊漁の海と手入れの行き届いた田んぼ畑、一年中青々とした松の木で覆われた神集島の姿は、神集島小学校の校歌にも、『島は緑に玄海の 伝説ゆかし神の島』と、歌われている。

## 2. 漁業の概要

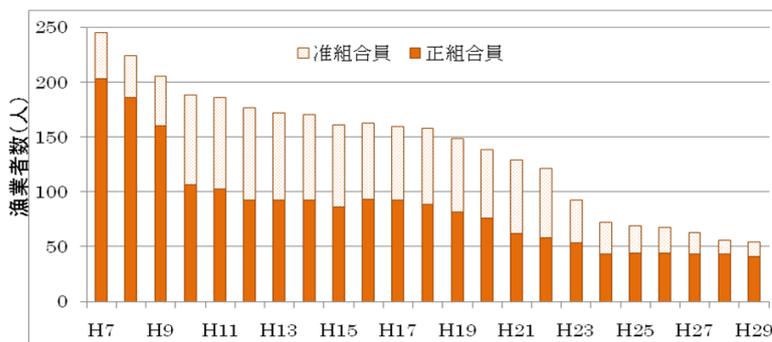
神集島の漁業は素潜り漁などの採貝採藻、えび漕ぎ網、定置網などが主に行われている。素潜り漁には伝統的な『ねりこ潜』があり、妻が船の櫓をこぎ、夫は船底を蹴って深く潜るといふ、二人一組の漁である。わが家もウニ、アワビ、サザエなどをこの『ねりこ潜』で採り、生計を立てている。15年前に義母と世代交代し、私も海に出るようになった。初めは思うように船を動かすことができず、夫に怒られてばかりだったが、今では余裕もでき、漁の時間を船の上で楽しむことができるようになった。

しかし、伝統ある神集島の素潜り漁も非常に厳しい状況となっており、義母の話では昔はまさに豊漁の海で、湧くように魚が獲れ、潜ればアワビ、サザエの花が咲いていたとのこと。もはやそれも昔話になってしまい、ここ数年の不漁はひどく、特にアワビが激減している。他のえび漕ぎ網、いかかごなども不漁続きである。



## 3. 研究グループの組織と運営

この不漁続きの中で、神集島の漁業者数も減少している。平成12年には正組合員95人、准組合員77人、合計172人がいたが、平成29年現在では、正組合員41人、



准組合員13人、合計54人になってしまった。

ねりこ潜の夫婦も昔は13組ほどいたが、現在は2組となり、その中の1組が私たちである。

## 4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

このような状況の中、私達は神集島での暮らしを守るため、できることから始めるという気持ちで島おこし活動に取り組むことにした。

## 5. 研究・実践活動状況及び成果



まずは少しでも収入を上げるため、市場開発や付加価値を付けた商品提供に取り組もうと、昔ながらの島の家庭の味、ガゼ味噌作りから始めた。「ガゼ」とは「ウニ」のことで、地元では昔からウニ味噌のことを「ガゼ味噌」と呼んでいる。

ガゼ味噌は原料であるムラサキウニが獲れる3月限定で製造・販売しており、当初は簡単に見えた作業も商品として作り出すには問題が多く、試行錯誤しながら4年目ようやく商品化のめどが付いた。しかしながら、材料調達・手間など、コスト面から量産、販売に至っていない状況である。

また、平成23年3月に島唯一の学校だった神集島小学校が廃校となった。全島民にとって思い出深い学校であったので、今でも非常に残念に思っている。

しかし、悪いことばかりでなく、市から神集島の島おこしについて2つ提案があった。

1つ目は旧神集島小学校を拠点として島づくり活動を進めていくこと。旧神集島小学校には、加工場として利用できる給食室やイベントが開催できる広いホールなどがあり、これらを活用した島づくりを進めてよいというものであった。



2つ目は神集島小学校を活用した地域おこしを、九州大学と連携した市のモデル事業として位置付けるということ。

九州大学で町づくり・地域づくりを研究している田北雅裕先生と学生たちの協力を得て、地域おこしを進めていけることとなった。

最初は半信半疑であったが、これをきっかけに私たちの地域おこしは急速に進んでいくことになる。

## 6. 波及効果

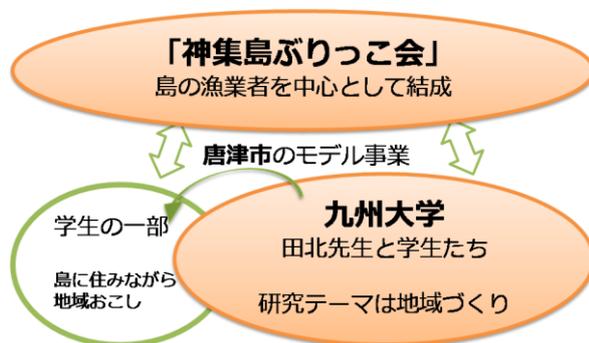
島おこしの活動は少しずつ賛同者が増え、最後には私たち漁協女性部に加え、若手漁業者や漁業者以外の人も巻き込んでいった。九州大学、唐津市、そして、神集島の島おこし活動グループ「神集島ぶりっこ会」の3者で神集島まちづくり研究室「まちけん」が発足となり、何度も何度も打合せを行い、活動内容を形にしていった。

私たちの活動は大きく2本柱で進めることとなった。それは、神集島観光イベントの「島ピクニック」の開催と神集島の良さを生かした特産品の製造販売である。

「島ピクニック」のイベントの元になったのは『神集島祇園祭』である。祇園祭は島に関係する多くの人が集まり、立派な山を引き、それはにぎわう祭であったが、人口の減少により、昔のにぎわいがなくなり、寂しく思っていたところであった。そこで、祇園祭と合わせて島ピクニックというイベントを開催し、島の外の人にも多く来てもらい、一緒に島を盛り上げよう！ということで企画を進めることになった。



暑い中での開催ではあったが、参加者の方もとても楽しんでもらえたようで、リピーターになってくれた方も多く、今年も7月22日に第4回目の島ピクニックを開催したところ、非常に好評で、今後も続けていきたいと考えている。



唐津市・九州大学田北研究室

10代～30代の若手のみなさまへ

8月13日 / 19:30～21:30 に第1回目を開催します！

### 神集島まちづくり研究室

---

この度、九州大学田北研究室では、神集島在住・出身者の10代～30代の若手のみなさんと一緒に、神集島の未来を考え、提言し、まちづくりを実践していくためのグループ「神集島まちづくり研究室」を立ち上げたいと考えております。

神集島は、少子高齢化が進んでおり、今後も集落を維持していくためには、様々なアイデアと人材が必要になっています。その中で、若手の皆さんと一緒に、神集島の未来を模索し、次の世代に希望をつないでいきたいと思っております。

具体的には、今後、みなさんと一緒に「まちづくり談義（まちけん談義）」を継続的に開催していきます。そして、最終的には、廃校となった神集島小学校の活用を通じた「まちづくりのビジョン」を作成したいと考えております。今回は、その第1回目の会合です。

8月13日はお盆ということで、神集島を離れて暮らしている方も戻って来られているとおもいます。ぜひ、お友達やお知り合いをお誘い合わせの上、ご参加ください。よろしくお願いたします！

8月13日（火）19:30～21:30

期回 まちけん談義

「神集島の現在（いま）を考える」

場所：神集島小学校

参加者：30代以下の皆さん、九大学生、他

今回は、みなさんが感じている神集島の魅力や課題について、ぜひ皆さんにお話ししたいと思います。参加費無料です。

★中国杯生も大歓迎です！

島ピクニックではいろいろな企画を行う。中心となるのは山引きで、参加者は普通はできない祇園祭の山を一緒に引いてもらう事ができる。また島の名物を詰め込んだ「神集島定食」、釣り体験、神集島一周遊覧船、神集島の名物区長さんの神集島ツアーなどの企画も行った。

特に、神集島定食は私たちの自信作で、島で獲れたひじきをふんだんに使ったヒジキご飯、伝統料理の呉汁、石割豆腐、さらに島で獲れたカメの手、ミナ、サザエ、バリの刺身などがメニューで、この定食がお弁当になり、ピクニックの楽しみの一つとなっている。



次に特産品の製造販売について、地元でも島の外ではあまり知られていないようだが、神集島には「石割豆腐」という名物がある。硬く仕上げるのが特徴で、石の上に落としたら石の方が割れた、という逸話から石割豆腐と名付けられたと伝えられている。



この石割豆腐の豆乳を活用して何かできないかと検討を重ねた結果、「豆乳生ジャム」と「豆乳生ようかん」を開発することができた。完成した生ジャムと生ようかんはイベント等での販売を行った結果、好評で今後もより多くの方に楽しんでもらえるよう、販売促進を検討している。

もちろん私たちは漁協女性部を中心とする集まりであるため、新鮮な島で獲れた水産物を使った加工品にも取り組んでいる。島では、定置網や底引き網、素潜り漁などで多くの新鮮な魚介類が水揚げされる。

これらを活用し、すり身やフライ、それらを使った総菜パン等の製造に取り組み、所得向上のために島外で利益の出る価格で販売することを目標に取り組んでいる。今はまだイベント等を中心とした販売であるが、将来的にはしっかりした販路を見つけ、安定した製造販売を行いたい。

そのために島内での販売も取り組み始めた。平成28年6月から島で唯一の店、購買部で週2回の総菜販売を開始した。島では総菜を買える店が他になく、料理をするのが難しい一人暮らしのお年寄りにとって、私たちの総菜販売が大事な楽しみのひとつになっている。毎回、総菜の販売前には行列ができ、販売開始から10分後には残り数個となるような状況である。地元向けの販売なので、販売価格は製造原価ぎりぎりではほとんど利益はない。しかし、島のお年寄りの生活向上のため、喜ぶ顔を見るために、今後も島内での総菜販売を続けていきたい。





もう1つ、お年寄りを対象とした企画がある。神集島小学校では毎年3月に「ひいな祭」と題して、島中からひな人形を集めて小学校に飾っている。これに合わせて、島のお年寄りを招待して食事をふるまっており、毎年喜んでもらっている。

#### 7. 今後の課題や計画と問題点

現在、加工品の製造は年齢、性別もバラバラな11人が中心となり活動している。大変なことも多いが、今後も頑張っていきたい。

私たちは島の活性化を目的とし、外へと仕事を求めて出た人が少しでも戻ってこられるよう、島での就労、働ける環境作りが少しでもできないかという想いで活動している。まだまだ遠い道のりではあるが、ガゼ味噌、石割豆腐、生ジャム、生ようかん、そして、すり身や総菜、パン作りにも取り組みながら外へと発信する準備を整えている。



離島であるため、輸送や販売、集客といった面でリスクも多く、思うように活動できないなど、まだまだ課題が多いのが現状。とはいっても、進むべき方向に向かっていかなければならない。今後も島のみんなの力を合わせ、周りの人たちの協力も得ながら、少しずつでも前進していきたい。